

## 平成26（2014）年度事業報告

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

I. 平成26年度は一般社団法人に移行した最初の年度であった。前年度末で確定された公益目的財産（2,480,870円）の活用も念頭に置きつつ、当協会主催イベントの開催、会報の発行、また日本とボリビアとの交流、相互理解、友好に資すると見られる様々な事業、活動に積極的に参加、協力した。会員の増減は増10名、減3名、差引き7名増となり、2015年3月末現在の会員総数は91名となった。

### II. 具体的事業・活動

#### 1. 自主企画主催イベントの開催

エンターテイメント系イベントとして恒例化した年末のX'Masイベントは、本年度は12月2日（火）、慶応大学講師の児島峰氏による「オルロのカーニバル」をテーマとする講演、続いてロス・アスピランテスによるフォルクローレ演奏とダンス鑑賞を交えながら参加者の交流・懇親会をレストラン・サロン・ド・ジュリエ（銀座）で開催した。新任のサアベドラ駐日ボリビア大使を初め、約20名の非会員を含む約50人が参加し盛況であった。

一方、ビジネス系のイベントについては本年は実施に至らず、来年度の課題となった。

#### 2. 会報カントゥータの発行回数増加、及びHP（ホームページ）の充実

2014年10月に第22号を発行した。配布方法について、一時、電子媒体を持たない会員に対してのみ郵送していたが、より幅広い読者層に読まれるようにとの配慮で、協会ホームページで引き続き掲載するほか、全会員への紙媒体での配布を再開した。

さらに2015年3月には来期の計画を先取りしたスペイン語での寄稿を含めて第23号を発行したが、当期の発行数は2回に留まった。

#### 3. 新駐日ボリビア大使歓迎会

2014年11月26日、同年9月に着任されたエリック・サアベドラ（Erick Saavedra）新駐日ボリビア大使を迎え、六本木・権八にて当協会主催で歓迎会を開催した。過去約10年間に約30回を超える訪日経験をつうじて大の知日・親日派である大使と、出席した役員・会員を合わせて12名が歓談し、今後における両国間の一層の交流発展へ向けて親睦を深めることができた。

#### 4. ボリビア新大使による講演会開催（ラテンアメリカ協会との共催、米州開発銀行(IDB)アジア事務所後援)

10月30日、ラテンアメリカ協会との共催で、IDBアジア事務所(千代田区内幸町)においてサアベドラ新駐日大使による、最近のボリビアの政治経済事情に関する講演会を開催した。当協会は主として大使との連絡・調整を担当し、講演会当日は、白川会長が開催者側を代表して挨拶を行った。参加者は50名余り。若く実業界出身で意欲あふれる新大使の話は出席者に新鮮な印象を与え、講演後短時間ながら熱心な質疑応答が行われた。

#### 5. 各種イベントへの参加、協力、後援

##### (1) オキナワ移住地開設60周年式典への参加

8月16～17日(土・日)にボリビアのサンタクルス県オキナワ村で開催された本件式典に、杉浦専務理事と長嶺理事が代表して出席し、白川会長の祝辞と祝い金300\$を贈呈した。式典やそれに続く祝賀行事には、ボリビア国内及び、南米各地、日本から約1500名の参加があり、沖縄県からも高良副知事、喜納県会議長、翁長那覇市長、稲嶺名護市長、大城琉球大学学長、山里名桜大学学長が、ボリビア側からはアギラルデ外務次官、ルベン・コスタ・サンタクルス県知事などが参加した。

#### (2) 第55回海外日系人大会への参加

本大会が10月22～24日の3日間にわたり、東京・憲政記念館、JICA市ヶ谷ビルで開催された。皇太子殿下ご臨席の参加者歓迎交流会、各国代表者会議と分科会(メインテーマは「日本文化を創造する海外日系人社会―「和食」の展開に示す底力」、分科会テーマ・日本文化の継承と発展、日系社会とビジネス連携、新たな人材をになう日系ユース)、中心テーマの和食を体験するオフィシャルツアー、在日日系こども発表会等盛り沢山のプログラムを経て、7項目の大会宣言で締めくくられた。

大会には海外22カ国1地域から約140名が参加(ボリビアからコモリ現ラパス日本人会会長が出席)。当協会の白川会長が主催者の海外日系人協会の専務理事として、当協会から杉浦専務理事が参加した。

#### (3) 第12回日本・ボリビア国際医学シンポジウム参加

当協会維持会員の特定非営利活動法人・日本ボリビア医療友好協会(代表:森下鉄夫氏)が主催する本シンポジウムが11月14～16日に森下氏も参加されラパスで開催された。

#### (4) ボリビア・フォルクローレ・ダンス イベントへの後援名義付与と参加

中南米のフォルクローレダンスの紹介活動を行っている「アストライアの会」主催のボリビア・フォルクローレ紹介イベントが1月25日、豊島区勤労福祉会館で開催され、主催者側からの要請に応じ後援名義を付与するとともに、協会役員2名が出席した。

#### (5) 日本・ボリビア外交関係樹立100周年記念、経済フォーラム&EXPO Bolivia 2015への後援名義付与と参加

1月9～10日、三重県津市でNPO法人・日本ボリビア人協会が開催した上記イベントに後援名義を付与するとともに、協会を代表して杉浦専務理事が開会式等に出席した。

駐日ボリビア大使館書記官、在日日本ボリビア商工会議所会頭等による日本ボリビア関係に関する講演が行われ、約100人余りの参加者が興味深げに傾聴した。

#### (6) 沖縄ボリビア協会コロニアオキナワチャリティゴルフへの後援・寄付

2月18日、沖縄オリオン嵐山ゴルフ倶楽部で開催された、ボリビアの貧困児童支援のためのチャリティゴルフ大会を後援し、10,000円を寄付した

### 6. 各種活動・照会への対応、斡旋、情報提供等

#### (1) ラテン音楽グループ“Tierra Cuatro”のボリビア等公演への支援協力

2015年9月にラパスで開催される音楽祭Festi Jazzへ当グループが招聘され参加するのを支援するために、5つの財団への助成金申請をサポートした。現在その審査結果を待つ

ているところである。

(2) サンタクルス県コンセプション市の青少年への中古サッカー用具寄贈計画への協力  
現在札幌在住のサンタクルスからの帰国者の松村秀明氏（当協会会員）より、JICAの援助物資輸送のスキームなどを使って輸送する方法がないか相談を受けた。JICA、在日ボリビア大使館、更に日本の海上輸送業者等に問合せたものの、中古用具の輸入については原則禁止されており、ボリビア側輸入許可の取得や関税の課税関係などにつき明確に判断できる情報が纏まらず、結局、松村氏が個人的ルートを通じて約半分を持ち込むこととなりその結果を現在見守らざるを得ない状況である。

#### (3) コチャバンバ日本語教室への教員派遣斡旋

当協会の斡旋で2013年6月から2年の予定でボリビア・コチャバンバ市に日本語教師として赴き、日本語教室「ひのき」を開設していた佐藤葉氏は予定を半年繰り上げて2014年12月に帰国した。これに伴い現地の日本語教育は、「ひのき」から分かれた日本人会運営の教室に受け継がれて存続することになった。

#### (4) 横浜世界コマ大戦2015へのボリビア青少年2名の招聘への協力

横浜に本部のある全日本製造業コマ大戦世界大会実行委員会が、ボリビアから2名の青少年を日本へ招待参加させるに際し、来日する航路選定、チケット手配、渡航書類準備、滞日中の諸注意などについて情報提供を行った。JICAシニアボランティアの平野正氏の派遣先であるボリビアの職業訓練学校で選抜された2名は2月15日の大会に参加し大歓迎を受け、その後日本の中小企業の工場見学をして同18日無事帰国した。

#### (5) ボリビアに建機の保守・操作訓練学校を創設する構想に関する協力

神戸在住の建機リース会社オーナーから、ボリビアの劣悪な道路事情とその整備のニーズが大であるにも拘らず、必要な技術を有する人材が乏しい状況に鑑み、道路建設のための設計施工技術・技能者、及び建設用建機の操縦技能者を養成する職業訓練学校の創設を支援したいとして、実現の可能性などについて相談があった。

本件はODAの枠組みでの対応の可能性を検討するのが適当と思われ、現在JICA（中南米部）が現地へ照会中である。

#### (6) JICA日系研修員募集への協力

夫人がサンファン出身の獣医師・宮崎修氏より、同氏の子息が就学中の麻布大学からの上記日系研修員募集に関する協力打診があり、サンファン農協CAISY、オキナワ農協CAICOへ照会取次ぎを行った。残念ながら本年は希望者が無かったが、来年以降への可能性に繋ぐことができた。

#### (7) 在コチャバンバ身障者孤児施設「聖マルティンの家」への電動車椅子輸送支援

同施設への在日支援団体エルピス代表（代表・俵靖子氏）から、同氏の実妹である聖マルティンの家の野原昭子代表よりの要請に応じ、本年、大学へ進学予定である同施設下肢障害者男子に電動車椅子を寄贈したいとして、その輸送方法等につき相談を受けた。日本のメーカーや協会会員の海上輸送会社から、輸入許可や免税手続について情報収集

を試みたが現時点ではまだ十分な情報が集められず、寄贈は保留されている。

(7) 日本ボリビア医療友好協会・森下鉄夫理事長夫妻のボリビア大統領就任式出席

2015年1月21~22日に行われたボリビア・エボ・モラレス大統領の就任式典に森下理事長が招待され出席された、ティワナク遺跡での儀式に続き、立法議会議事堂での宣誓就任式、祝賀パレード、中央銀行での晩餐会などが盛大に挙行された。

(8) 4月中旬ガルシア・リネラ副大統領夫妻が来日、安倍首相など政府要人と会談された。

一般社団法人 日本・ボリビア協会

貸借対照表

平成26年4月1日~27年3月31日

資産の部		
現金		49,986
預金		2,709,620
資産合計		2,759,606
負債の部		
未払金		0
負債合計		0
正味財産の部		
正味財産		2,759,606
(内当期正味財産増減)		278,736
負債及び正味財産合計		2,759,606

一般社団法人 日本ボリビア協会 財産目録 (平成27年3月31日)

資産の部		
現金		49,986
預金		2,709,620
三菱東京UFJ銀行	1,525,134	
ゆうちょ銀行	1,184,486	
資産合計		2,759,606
負債の部		
未払金		0
負債合計		0
正味財産		2,759,606

社団法人 日本ボリビア協会 財産増減計算書

区分	期首残高	期末残高	増減
現金	102,366	49,986	▲ 52,380
預金 三菱東京UFJ銀行	1,141,288	1,525,134	383,846
ゆうちょ銀行	1,237,216	1,184,486	▲ 52,730
預金小計	2,378,504	2,709,620	331,116
合計	2,480,870	2,759,606	278,736

科目	26年度予算額	26年度決算額	増減額	決算額についての備考
1. 管理費				
事務経費	100,000	44,552	-55,448	
通信運搬費	50,000	29,332	-20,668	
交通費	0	0	0	
消耗品費	40,000	4,020	-35,980	
雑費	10,000	11,200	1,200	
管理費合計	100,000	44,552	-55,448	
2. 事業費				
旅費交通費	80,000	47,059	-32,941	
通信運搬費	100,000	17,117	-82,883	
消耗品費	60,000	36,431	-23,569	
ホームページ維持管理費	120,000	27,108	-92,892	
支払負担金	60,000	66,362	6,362	
交流会費	380,000	423,738	43,738	
カントウタ発行費	0	17,222	17,222	
雑費	10,000	21,195	11,195	
事業費合計	810,000	656,232	-153,768	
3. 予備費				
予備費	0	0	0	
4. 支援事業費				
援助費	0	0	0	
支出合計	910,000	700,784	-209,216	
次期繰越金	2,521,370	2,759,606	238,236	
支出の部合計	3,431,370	3,460,390	29,020	

平成 26 年度監査報告

一般社団法人日本ボリビア協会

会長 白川 光徳殿

私たち監事は、当協会の平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの平成 26 年度における理事の職務執行について監査を行いました。その結果を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 99 条第 1 項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 197 条において準用する同法 99 条第 1 項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 36 条及び第 45 条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 64 条において準用する同規則第 36 条及び第 45 条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事上意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事からその職務について報告を受け、重要な決裁書類を閲覧し、当協会の上たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

上記の方法によって、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。さらに、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行ない、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等に付いて監査しました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 理事の職務の執行に関する不正の行爲又は社令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録などの監査

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 27 年 4 月 17 日

監事 金木 克公  
監事 永井 和夫



## 平成 27 年度（2015）事業計画

（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

### I 基本方針 会員増加活動の継続・強化・促進

日本とボリビア両国間の交流を通じて、相互理解と友好親善協力の関係をより一層発展・進化させることを目指し、会員各位や関係先からの協力も得て、本年も昨年に引続き、役員全員で努力を積み重ねて行く。

昨年 2014 年度末の会員総数は、91 名（個人会員 81 名、法人会員 10 名）と前年度末比較で 7 名増と微増に留まった。（個人 10 名増—3 名減=ネット 7 名増、法人は増減なし）本年は改めて、昨年から持越した 100 名達成を継続目標とする。

会員加入の重点対象として、従来からの女性・若者・シニア層に移住帰国者を加え、本年度はさらに、昨年 9 月に新大使が着任した在日ボリビア大使館とも連携して、在日ボリビア人・ラテンアメリカ人のネットワークの現状把握を積極的に進め会員加入を働き掛けることとする。この方針に沿って、会報やホームページでのスペイン語記事内容の充実を図るとともに、ラテンアメリカ関係組織・団体との交流を深めて日常的繋がりを生み出すキッカケ創りを活発化し、イベントへの参加などへ積極的に勧誘して会員加入へ繋げて行く。

### II 具体的事業

#### ① 自主企画イベントの充実

参加して「楽しい、面白い」と感じて貰えるようなエンターテインメント系としての従来のボリビア関係「音楽・ダンス・料理・食材」を主とした X'Mas イベントに加えて、「為になる」教養系のイベントとして、来年 1~2 月を目途に、ボリビアを含むアンデス関係の、「考古学、遺跡、現代史、小説・詩文・映画・絵画」などの文化ジャンルでのイベントを新たに 1~2 件追加企画することとし、予算として 60 万円を計上する。

#### ② 会報 Cantuta の充実

発行回数をこれまでの年平均 2 回から、2~3 回へ増やすとともに、スペイン語による寄稿記事を新たに掲載することとし、併せて表紙を含めたデザインについて、斬新性を加え会員などからの好感度アップを目指して予算 10 万円を計上する。

#### ③ ホームページ（HP）の充実

リンク先についてスペイン語を主言語とする外部HPへの拡大を図ると共に、内容の追加・更新・修正を協会内部で容易にできるように運用面の改善を図るため予算として 10 万円を計上する。

#### ④ 駐日ボリビア大使館との連携によるボリビア情報提供体制の充実、並びに在日ボリビア人ネットワーク創りへの協力

駐日ボリビア大使館と連携して、ボリビアに興味・関心を持つ日本人一般層へのボリビア文化・産品・観光情報の提供、並びに日本の地方・中小企業向のボリビア関係ビジネス情報の提供を進めると共に、在日ボリビア人や、ボリビア移住帰国者の主催するイベントへの参加や、集住地域訪問をつうじてネットワークの構築整備に協力する。

併せて、Chagas 病の感染防止と治療のために、日赤の検査技師・三浦左千夫氏が行う在日ボリビア人集住地への訪問集団検診に協力する。

⑤ ボリビアを含むラテンアメリカ関係組織・団体との連携充実

下記の外部組織・団体の主催するセミナー・イベントへ積極的に参加して、ボリビア関係情報の積極的提供を行うと共に、先方からのボリビアを含むラテンアメリカ関係情報を収集し内外のボリビア関係者に提供する。

ラテンアメリカ (L A A) 協会、L A 関係駐日大使館・国別組織・団体、海外日系人協会、J I C A, J E T R O, J A T A, F O O D E X, ラテンアメリカ文化交流協会 (A M I G O)、イスパニカ、セルバンテス協会、L A 関係各種学会、キヌア研究会、日本ボリビア医療友好協会、D I F A R, 日本ボリビア人協会。沖縄ボリヴィア協会、サンファン帰国者の集い など。

⑥ 在ボリビア日系人社会との在日ボリビア人社会との交流促進支援

ボリビア主要都市・移住地の定期訪問、在日ボリビア人社会と連携したボリビアからの政府・民間などの要人来日、日系人・ボリビア人の訪日研修、への側面支援協力を継続して実施する。

また、本年 8 月のサンファン移住地 60 周年記念式典へ代表派遣を計画する。

⑦ 日本マスコミのボリビア関係取材への協力

ボリビア関係情報の提供を通じて、ボリビアの P R への支援協力を働きかける。

⑧ 個別案件への協力支援

\* 日本人ボリビア移住 100 周年誌のスペイン語版『Los japoneses en Bolivia』

(ボリビアに生きる) の日本国内頒布の継続推進

刊行後 1 年半で現在累計 103 冊となり、目標の 200 冊を目指して、ラテンアメリカ関係学者・研究者、在日移住帰国者の配偶者・子弟、ボリビア人留学生・研修生などへの P R 頒布を継続する。

\* ラテン音楽グループ・ティエラ・クアトロ (Tierra Cuatro) の本年 9 月ラパス・Fiesta Jazz への招聘公演向け助成金申請手続きなどへの支援協力

ようやくにして資金調達の目途が付き、9 月 7 日～ 26 日の訪ボが決定、

Cochabamba, Sucre, La Paz, Santa Cruz, サンファン・オキナワ移住地等で延べ 7 回のコンサートを計画中

\* コチャバンバ・身障者孤児救済施設・聖マルティンの家の日本での募金活動への P R 支援協力

\* 建機の保守・操縦訓練学校・講座創設への情報提供など支援協力。

\* Paraguay 作家 Juan Manuel Marcos 氏の著書『El Invierno de Gunter』の  
日本語版翻訳出版への関係先斡旋支援協力 以上

一般社団法人 日本ボリビア協会  
平成27年度収支計算書(損益計算ベース)予算(案)  
期間:平成27年4月1日~平成28年3月31日

(単位:円)

科 目	平成26年度 予算額	平成26年度 実績	平成27年度 予算額
1 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
資産運用益	500	520	500
預金受取利息	500	520	500
受取年会費	800,000	787,000	800,000
個人会費	200,000	257,000	200,000
法人会費	600,000	530,000	600,000
雑収入	0	10,000	0
交流参加費	150,000	182,000	200,000
経常収益計	950,500	979,520	1,000,500
(2) 経常費用			
事業費	810,000	858,232	1,080,000
旅費交通費	80,000	47,059	80,000
通信運搬費	100,000	17,117	50,000
消耗品費	60,000	36,431	70,000
ホームページ維持管理費	120,000	27,108	100,000
支払負担金	60,000	66,382	70,000
交流会議費	380,000	423,738	600,000
カントウタ発行費	0	17,222	100,000
雑費	10,000	21,195	10,000
管理費	100,000	44,552	150,000
通信運搬費	50,000	29,332	50,000
交通費	0	0	50,000
消耗品費	40,000	4,020	40,000
雑費	10,000	11,200	10,000
経常費用	910,000	700,784	1,230,000
当期経常増減額	40,500	278,736	-229,500
2 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	40,500	278,736	-229,500
一般正味財産期首残高	2,480,870	2,480,870	2,759,606
一般正味財産期末残高	2,521,370	2,759,606	2,530,106
II 正味財産期末残高	2,521,370	2,759,606	2,530,106